

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 12月 25日

事業所名 でいさーびす あいりんご6

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	必ず子どもへ目を離さない配置をしている	継続して利用者に目を離さない配置を心掛ける
	2	職員の配置数は適切である	80%	20%	配置を気を付けている	人が少ない場合などは他事業所へヘルプを出す
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	60%	40%	階段手すり設置	トイレ内の手すりなどを設置検討
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	80%	20%	毎日掃除している	全職員での掃除を心掛ける
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	50%	50%	月1の会議を行う	一部の職員だけになっているため、全体会議を増やす
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	アンケートは実施	アンケート結果をもとに業務改善を図る
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	アンケートは実施	定期的に評価をとる
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	60%	40%	行う予定	外部評価も行う予定
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	確保できている	職員が毎月参加できるように研修をしている
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	40%	60%	作成している	計画書の質向上は今後も課題
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	40%	60%	使用している	アセスメントツールは用いているが状況を完全に把握はできていない
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	40%	60%	具体性には少し書ける内容	支援内容をさらに詳細に書き質的向上を目指す
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	40%	60%	個別でかかわる	個別療育の時間を多くする
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	60%	40%	チーム内で話す	チーム内でプログラム立案はできている時もあるが、できないときもある
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	専門職で決めている	専門職が監修している。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	40%	60%	組み合わせはしている	個別活動の時間ももう少し必要

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	90%	10%	申し送りを毎日実施	毎朝申し送りはするようにしている
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	90%	10%	翌日の申し送り	翌日申し送りをできている
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	30%	70%	あまりできていない	記録なども残すように職員間で話し合う
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	40%	60%	欠かさずしている	モニタリングは毎回欠かさずできている
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	40%	60%	共有している	共有しているが同一人物ばかりになっている
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	60%	40%	電話連絡をしている	定期的に話し合いの機会を作る
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	40%	60%	診断書はある	診断書はスキャンしてリスク管理や見直しをしている
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	80%	20%	診断書がある	医療リスク・重度の子がいないため実例はない
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	80%	20%	共有している	相談支援員からの情報共有がメイン
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	80%	20%	送迎時に申し送りを受けている	何かあれば事業所から連絡をする必要あり
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	60%	40%	できている	専門家の研修へ参加を促す
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	20%	80%	機会はあまりない	連絡を入れて活動する機会をふやす
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	40%	60%	参加できていない	参加率を上げていく必要がある
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	理解共有している	送迎時に話し合いを行うようにしている
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	60%	40%	している	保護者へのアドバイスを紙面でしている
32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	60%	40%	契約時に説明する	契約時に説明を行っている	
33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	60%	40%	計画書は確認をしてもらっている	計画書は確認をしてもらっている	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80%	20%	送迎時に確認	送迎時に話し合いを行うようにしている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	20%	80%	できていない	保護者も参画した事業運営をしていきたい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	対応は迅速にできている	なにかあればすぐに管理者への報告と対策を話し合っている
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	60%	40%	行事予定作成している	行事予定表などは作成し共有している
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	できている	個人情報漏れないように何度も指導している
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	している	配慮する点は共有をしている
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	40%	60%	できていない	地域への行事などへ参加を推進
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	80%	20%	周知できている	保護者へも周知をする必要がある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%	20%	できている	避難訓練など問題なくできている
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	できている	服薬管理は保護者から最新情報を忘れずにとる
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	できている	継続
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	共有している	共有の継続
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	委員会への参加あり	委員会や研修を定期的に行う
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	記載している	説明は欠かさずにする

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。